

8606 ぼくはイギリスで警官につかまったことが・・・

ぼくはイギリスで警官につかまったことがあるんですよ。真夜中の話で、角からでて、右手十メートルくらいのところにあるホテルにお客をとどけようとした。ところが、右折禁止なんですよ。だれも見てないだろうと思って、ええいってやっちましたの。そしたら、ふしぎなことに警官のオートバイがすぐ窓の横にいる。「おまえ、右折禁止が見えなかったのか」と言うわけですね。ぼくは「いやあ、どうも、見えなかった」と言ってニヤッと笑ったんだ。そしたら「おまえ、何で笑う」と怒るんだね。

深田 祐介：いきいき対談

[許容訳例]

Actually, I was once caught by a policeman in England. It happened in the middle of the night, when I was driving a guest to his hotel ten meters off to the right from a corner. In fact, making a right turn was forbidden at the corner, but supposing that nobody would see I boldly turned to the right. To my surprise, a motorcycle with a policeman on it appeared immediately next to the window. "Didn't you see the 'No Right turn' sign?" he said. I grinned at him. "No, I didn't," I said. "Why are you grinning?" he demanded angrily.

[翻訳例]

Actually, I once got caught by a policeman in England. It was the middle of the night, and I came round a corner to deliver a visitor to a hotel about ten meters along to the night. In fact, right turns were prohibited at the point, but no one was looking, I thought, so I went ahead regardless. The next moment, I was taken aback to see a policeman motorcycle right alongside the window. He demanded to know, of course, if I hadn't seen 'No Right Turn' sign. "Well, no—" I said, "I'm afraid I didn't," and gave him a grin. That made him angry. "What are you smiling at?" he demanded.

■ぼくはイギリスで警官につかまったことがあるんですよ。 (8606)

★「イギリスで」は in England です。

★「警官に捕まる」は be caught by a policeman ですが、「(うっかり)油断して」の感じを加えるなら get caught by a policeman です。なお, by the police (警察に) でもいいでしょう。

◆「・・・したことがある」(現在完了にするか過去時制にするか)

「警官につかまったことがある」を I have been caught by a policeman としても間違いではありませんが、現在完了は‘過去の動作・状態が現在にも及んでいること’を表すので「捕まって今も捕ったままいる」という意味にもなって曖昧です。こういう場合は現在完了を使わないで I was once caught by a policeman/ I once got caught by a policeman と過去時制を使った方がいいです。なお, once の代わりに ever は使えません。ever が「かつて・今まで」

という意味になるのは否定文・疑問文・条件節の中だけです。

★「・・・があるんですよ」は、前の文章からの関連で微妙にニュアンスが変わってくると思いますが、たとえば、イギリスの警察はきびしいというような話をしていて、その一例として話を持ち出すというような場合なら、「実は・・・んですよ」という意味で *actually*(まさかと思うかもしれないが、実は)を加えます。

■真夜中の話で、角からでて、右手十メートルくらいのところにあるホテルへお客様をとどけようとしていた。(8606)

★「真夜中の話で・・・」の「話」は「それは～のこと」をまとめたもので、「それ」とは「警官につかまつたこと」です。それが「真夜中に起こった」のです。したがって、「それは真夜中で、・・・」として *It was the middle of the night, …*とするか(この場合の *it* は時間・距離・天候などを表す代名詞)、あるいは「それは真夜中に起こって、・・・」と解して *It happened in the middle of the night, …*とするか(この場合の *it* は前の文・句・内容などを受ける代名詞)です。なお、この *It* の変わりに *That* あるいは *This* を使う必要はありません。最近、特にアメリカの政治家(レーガン大統領もそうでした)が強調する感じで *that* を多用していますが、普通は認められない使い方です。代名詞の *it; this; that* の使い方は、結構難しいらしく、“What is this?”—“A pen.”と正しく教えてているのはイギリスやかつてイギリスの植民地だったところで、たとえば、日本では“What is this?”—“It's a pen.”であり、昔、ちょっと調べたのですが、南米のチリで作られた英語教科書では“What is this?”—“That's a pen.”となっていました。

● [で] (同時)

「真夜中の話で・・・」の「[で]」は「[で] そのとき・・・」ということですから *and* でもよいし、書き方によっては *and* を *when*(=at which time)を使うことも出来ます。

★「角からでて」は、すぐ後の「右折禁止・・・」から、「角から出て右にまがった」とわかるのですが、そうは書いてないので *I came round a corner* とするしかありません。

★「(角から)右手十メートルくらいのところにある(ホテル)」は日本語として曖昧です。「角を(右に)曲がって十メートルくらいのところにあるホテル」(A hotel about ten meters (along) to the right)とも、「角を(右に)曲がって十メートル行った右側にあるホテル」(a hotel about ten meters off [away] on the right from a corner)とも考えられますが、後者の場合は「右手」の位置は、「角を(右に)曲がって十メートルくらいの右手にあるホテル」となるだろうと思われます。

● 「連体修飾節 + 不定代名詞的体言」(右手十メートルくらいのところにあるホテル)

「右手十メートルくらいのところにあるホテル」は「連体修飾節(右手十メートルくらいのところにある) + 体言(ホテル)」ですから、英語では「名詞(a hotel) + 関係詞節(which is (situated) about ten meters (along) to the right)ですが、which is (situated)は省くことが出来ます。なお、*along* はなくても構いませんが、入れると‘新しく入った道を’というニュアンスが出ます。

★「ホテルへお客様をとどける」は deliver a visitor to a hotel です。deliver(間違いなくちゃんと送り届ける)の代わりに take も使えます。なお give one a ride to one's hotel は「(電車などでは大変なので)車で送ってあげる」ということで、ここではすでに車に乗っているのですから使えません。

★「客」は、ここでは guest(自分の家〔部屋〕・自分が泊まっているホテルなどに招いた客)なのか visitor(訪ねてきた客)なのかわからないので、どちらを使ってもいいでしょう。

●「・・・[て]・・・しようとしていた」(動作順次)

「角から出て、ホテルへお客様をとどけようとしていた」は「主動詞+句」で書くことの出来る例です。しかも「・・・しようとしていた」は「一時的今以後の動作」ですから to-Inf. を使う典型的な例です。したがって、I came round a [the] corner to deliver a visitor to a hotel…となります。なお、‘細い道から大通りの方に出てきた’という状況なら I came out of a side turning とも言えます。

■ところが右折禁止なんですよ。(8606)

★「ところが」は「逆接」関係なので But…ですが、ちょっと弱いです。「ところが～なんですよ」は最初の文と同じ口調です。後の方の「ええいってやっちまったの」と合わせて考えると、ここは「本当は・・・なんだ(けど、ええいってやっちまったの)」と続きます。したがって、ここは「(実は)右折は禁じられていた(のだが)・・・」ということなので In fact…がいいです。

★「右折禁止」は a right turn was [right turns were] prohibited とか、[making a right turn [right turns]; turning (to the) right] was prohibited です。forbid も間違いではありませんが、「法的な禁止」ですから prohibit です。なお、「その角は」の意味で at the corner あるいは「その地点」は意味で at the point を加えるといいでしよう。

■だれも見てないだろうと思って、ええいってやっちまったの。(8606)

★「だれも見ていないと思って」は No one was looking, I thought, …とか Thinking that nobody was looking [was watching; would see]など。Thinking の代わりに Supposing も使うことが出来ますが、ちょっと古い感じです。

★「ええいって・・・」の「ええいっ」という直接話法の掛け声は、地の文にそのまま直接話法を混在させるのを嫌う英文には入れることが出来ないので、「思い切って・大胆に・平気で」というような言葉に代えなければなりません。boldly とか regardless がいいでしょう。bravely はちょっと場面に合いません。

★「やっちまったの」は「(曲って)行った」ということです。つまり、「かまわずに行った[曲った]」ですから I boldly turned (to the right)でも間違いではありませんが、I went ahead regardless が英語的です。go ahead は‘やろうと思ったことをためらわずに実行に移す’ということです。to do something regardless という言い方は、たとえば、continue regardless とか press on regardless のように‘(相手・周囲にかまわらず) 平気で・・・する’という場合に使う表現です。

■ そしたら、ふしぎなことに警官のオートバイがすぐ窓の横にいる。 (8606)

★ 「そしたら」は、ここでは「次の瞬間には」という感じですから the next moment くらいが一番近いでしょう。

★ 「ふしぎなことに」は、辞書には *strangely enough* が出ていますが、ここはいわゆる普通の「ふしぎなことに」とはちょっと意味合いが違うと思われます。これはむずかしいところですが、たとえば、The next moment, I was taken aback [surprised; shocked] to see…のように、「驚いたことに、見ると・・・」という感じが強いと思います。つまり、ここの「ふしぎなことに」というのは「どうしてこんなに早く見つかったのか（不思議だ）」という気持ちを表現したものでしょうから、そのまま *strangely* としてはおかしいわけです。

★ 「警官のオートバイ」は‘警官’に比重があるのではなく、オートバイが警察のものであることを言いたいのですから「警察のオートバイ」と言い換えて a police motorcycle です。なお a motorcycle with a policeman on it も文法的には可能ですが、このような言い方が実際に使われることはまずないでしょう。なお、「人」に比重をかけると a policeman on a [his] motorcycle [motorbike] です。

★ 「すぐ窓の横に」は immediately next to the window とか、right alongside the window などでしょう。 *alongside* というのは、たとえば、The ship came alongside the quay. のように、同じ方向に〔横に〕並んでいる、という場合に使います。

■ 「おまえ、右折禁止が見えなかったのか」と言うわけですね。 (8606)

★ 「おまえ」は、イギリスの警官が「おい、おまえ」という感じで使いそうな言葉とすると “Here—” でしょう。アメリカ英語なら Hey でしょう。「おい、おまえ」の例としては、『英和イディオム完全対訳辞典』（マケーレブ・岩垣編著・朝日出版社）の中には Hey, you just dented my fender!（おい、おまえ、おれの車のフェンダーをへこませてしまったじゃないか）があります。

★ 「右折禁止」は「右折禁止の標識」と解釈すると ‘No Right Turn’ sign です。

● 地の文中の直接話法の処理

「おい、おまえ、右折禁止(の標識)が見えなかったのか」は二通りに考えることが出来ます。英語では、直接話法は相手の言った通りの言葉を伝えたい時に使い、そうでない時には間接話法を使います。日本文では臨場感を出すためにしばしば直接話法を使います。警官が本当にそう言った場合だと、直接話法で “Here—” he said, “Didn’t you see the ‘No Right Turn’ sign?” となります。ここでは、「・・・と言うわけですね」が曲者です。語り手が体験したことを警官の典型的な言葉を直接話法混じりで伝えていくように感じられます。つまり、実際に「おい、おまえ・・・」ではなく、「おい、おまえ・・・」というような口調でということです。その場合には、He demanded to know, of course, if I hadn’t seen the ‘No Right Turn’ sign. ぐらいになります。

★ 「・・・と言うわけですね」は「(思ったとおりのセリフを)・・・と警官は言った」と言うことでしょうが、「思った通り」は、強いて訳出するには及びません。訳すなら just as might

be expected ですが、もっと軽く of course ぐらいで「・・・と言うわけですね」の感じが出来ます。

■ぼくは「いやあ、どうも、見えなかった」と言ってニヤッと笑ったんだ。(8606)

★「いやあ、・・・」はバツが悪くてちょっと頭をかいているといった感じで、Well, no… ぐらいでしょう。

★「どうも」には、軽い謝罪の意味が込められているように感じられます。したがって、I'm afraid…を加えて“*I'm afraid I didn't*”としたいです。

★「ニヤッと笑った」は *I grinned at him* でもいいですが、「一回ニヤッと笑った」という感じですから *I gave him a grin* がいいと思います。

● [て] (動作順次) (と言ってニヤッと笑った)

「・・・と言つ [て]、ニヤッと笑った」は「・・・して・・・した」なので、英語では「主動詞(*I gave him a grin*) + 句(*, saying…*)」で処理して間違いではありませんが、こここの状況では「・・・と言つ [て] から」ちょっと間をおいて「ニヤッと笑った」と解する方がドラマチックですから…, *saying* ではなく…*and said*…とした方がいいでしょう。

■そしたら「おまえ、何で笑う」と怒るんだね。(8606)

★「そしたら」ですが、*Then…*とすると、この言葉は次の何か起こった場合の「それから」ということで、まったくドラマ性がなく、弱いと思います。ここでは「そしたら」は後の「…と怒るんだね」と重ねて「それが彼を怒らせた」として *That made him angry.* で表す方がいいでしょう。

・「おまえ、何で笑う」→「なぜ笑っているのか」は“*Why are you grinning?*”とか“*What are you smiling at?*”などでしょう。

★「・・・と怒るんだね」は「・・・怒って言った」として *demanded [asked angrily]* です。この場合の *demand* は *ask* と同じ意味ですが、かなり調子が強く「憤慨して [怒って] きく」という感じになります。